

テレビアニメーションにおける女子マネージャーに対するジェンダー観

毛利 美紀

高校生の部活動では、半数以上が運動部に所属しているとされる。思春期に運動部での活動を通して得る価値観は、社会に大きな影響を及ぼすと考えられる。一方、部活動における運動部のマネージャーは、ジェンダーフリーが推進される今日においても女子が務める役職であるという事例が散見される。こうした状況は、運動部の活動を描いたテレビアニメーションにおいても、社会情勢の反映として描き出されていると考えられる。しかし、これまで、テレビアニメーションにおける女子マネージャーの描写に基づいて運動部におけるジェンダー観を調査した研究は、単一の番組における女子マネージャーの描写についての分析にとどまっており、その様相は網羅的かつ具体的には明らかになっていない。

そこで、本研究は、現代のテレビアニメーションにおける女子マネージャーに関する描写を、可能な限り多くの作品を量的かつ質的に調査した上で、比較分析し、映像コンテンツに映し出された運動部マネージャーを取り巻くジェンダー観の現状を、詳細に明らかにすることを目的とした。

調査対象は、2000年代及び2010年代に放送された高校運動部を主題とするテレビアニメーション番組9作品の全エピソード計285本とした。分析手法は、女子マネージャーの登場シーンが作品に占める割合の計測に加え、先行研究の手法を援用したコーディングにより、女性役割については「他者への気遣い」、「男性優位」、「精神的・肉体的弱さ」の3項目、男性役割については「作動性の高さ」、「女性優位」、「精神的・肉体的強さ」の3項目を調査し、分析した。また、各項目の相関を調べることによって、描写相互の関連の度合いが示すジェンダー表現の傾向を考察した。

その結果、テレビアニメーションにおける女子マネージャーに関する描写では、「ジェンダー秩序」において選手は活動の主体である「男」であり、マネージャーはその活動を手助けする存在の「女」であると位置づけられ、女性性のステレオタイプのうち「気遣い」すなわち「母性」が求められていることが明らかになった。テレビアニメーションにおける描写に反映された意識の上では、運動部の活動における女子マネージャーを取り巻く環境に、ジェンダーステレオタイプに基づく関係がなお残存するといえる。

本研究は、運動部における女子マネージャーに対するジェンダー表現を、テレビアニメーションにおける描写を分析することによって明らかにしたものであるが、本研究によって得られた知見は、今後、アニメーションのみならず、実写作品や漫画、小説など他のコンテンツにおける女子マネージャーおよびジェンダーに関する表現の研究に資するものと考えられる。

(指導教員 辻泰明)